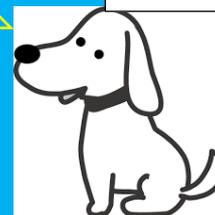


発行日
令和5年
5月17日(水)

1-1 通信



国際理解講話 ～ルワンダの教育を考える～

目標

- ・内戦で多くの国民の命を失ったルワンダの歴史に触れ、その中で教育というものがいかに重要な位置を占めてきたかについて学ぶ。
- ・日々当然のように教育を受けられていることが実は当たり前ではないという事実を学び、平和の尊さを知る。

自分たちが当たり前
に教育を受け、毎日おなか一杯
にご飯を食べていること
は幸せなのだ。

内戦中、貧しいからと
いって不幸だと思わ
ず、希望を持って
いる。「生きていれば明
るい明日が待ってい
る」という言葉が響き
ました。

みんなに平等な教育を
届けることは、まだまだ
世界の課題なのだ。

夢を語れるって、
あたりまえじゃな
いのだ。

僕がマリルリーズさん
の立場だったら、生活
できないと思った。

自分たちには選ぶ権利が
あるけれど、世界を見れば
そうではない人もいたこと
が分かった。



マリルリーズさんが語った、ルワンダの過酷な歴史に、生徒は聞き入っていました。決して希望を捨てずに、人との出会いの中で、人生を切り拓いたマリルリーズさんとの出会いに感謝したいといった生徒もいました。ほかにも、ルワンダが発展してきた秘訣や、マリルリーズさんがこれまで行ってきた支援について聞いたことで、その支援を自分もつないでいきたいという感想をもった生徒もいました。世界の諸課題に目を向けるきっかけにもなったようです。